

平成21年度
21世紀土地改良区創造運動
北海道大賞

受賞地区の概要

～新たな水土里ネットの創造～

○道民・国民が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織
○道民・国民の要請に対応した農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に
担つていける組織
を目指して



平成21年8月20日

水土里ネット北海道
北海道土地改良事業団体連合会

はじめに

21世紀土地改良区創造運動(以下「21創造運動」)は平成13年度から始まり、14年度には土地改良区の愛称「水土里ネット」が決定し、以降、この愛称の普及を含め土地改良区の役割の一層の發揮等に向けた多様な運動が全国的に展開されております。

また、平成15年度には、全国水土里ネットにおいて、全国の模範となる優れた運動や示唆に富む運動を展開している水土里ネットを表彰する「21創造運動大賞」が創設されました。

このような中で、本会は、21創造運動を一層推進する支援体制の強化を図るため、「21創造運動表彰選考委員会」を設け、平成16年度から「21創造運動北海道大賞」を選考しております。

21創造運動は、水土里ネットの役割・機能を再認識するなど自己確認、自己変革に取り組む(内部運動)とともに、農業・農村の多面的機能や農地・農業用水等の資源保全の重要性と水土里ネットの果たす役割などについて広く理解の醸成を図る(外部運動)ものであります。今後とも水土里ネットが、道民・国民が期待する農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織、また、農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織として発展するためには、これからも着実に継続して21創造運動に取り組んでいかなければなりません。

本会といたしましては、この表彰を通じ、関係者間の情報交換や道民・国民への広報の展開につなげ、さらなる運動の推進と新たな展開が図られるよう支援して参りたいと考えております。

I 21創造運動北海道表彰について

1. 21創造運動表彰の趣旨

「水」「土」「里」は食料の安定供給や農業・農村の多面的機能の発揮の基盤となる社会共通資本。道民・国民の財産であるこの「水」「土」「里」を良好な状態で次世代へ継承するため、水土里ネットでは、農業・農村の多面的機能の発揮を支える組織、農地・農業用水等の地域資源の維持保全を積極的に担っていける組織を目指して、21創造運動を積極的に展開している。

このような中で、模範となる運動を展開している水土里ネットの表彰を通じ、活動に取り組む関係者間の情報交換や道民・国民への広報の展開につなげることにより、水土里ネット関係者の運動への取り組み意欲の高揚と意識改革を図るとともに、運動のさらなる発展と新たな展開に資する。

2. 21創造運動表彰の選考経過等

(1) 選考対象

21創造運動に積極的に取り組み、北海道の模範となる運動を行うか、又は、他の運動に対して示唆を与える運動を行っている水土里ネット。

(2) 選考方法

本会「21創造運動表彰選考委員会」が、道内80水土里ネットの取組状況を精査し、北海道大賞を選定する。

(3) 「21創造運動表彰選考委員会」委員

委員長 梅田安治 農村空間研究所長、北海道大学名誉教授

副委員長 浜田哲 美瑛町長

委 員 長	澤 徹 明	北海道大学大学院農学研究院教授
//	森 久美子	作家、エッセイスト
//	小 田 たず子	消費生活コンサルタント
//	野 城 正 功	農政ジャーナリスト
//	本 田 亘 克	北海道開発局農業水産部調整官
//	加 藤 聰	北海道農政部農村振興局長

(4) 選考基準

水土里ネットが取り組む「創造運動」での愛称の普及、都市と農村との交流、地域住民等と連携した地域づくり、総合学習など学校教育との連携、先駆的な農業・農村振興、環境・景観保全、多様な広報などの推進において、その運動の取組体制、意味性、継続性・発展性で優れた活動が行われ、地域住民の理解促進や地域振興に貢献するなど運動の成果が認められること。

1) 運動の取組体制

- ①役職員の積極的な参加 ②運動を担う後継者の育成

2) 運動の意味性

- ①基本理念の明示 ②歴史の歴史の伝承 ③先駆的な取組

3) 運動の継続性・発展性

- ①持続的な運動の展開 ②発展・拡大 ③運動の計画性 ④多様なツールの活用

4) 運動の成果

- ①多様な連携 ②地域住民の理解 ③地域資源の保全強化
- ④農地・水・環境保全向上対策との連携 ⑤地域に貢献

(5) 選考経過

1) 第1回委員会

期 日 平成21年6月12日

選考内容

- ・「創造運動北海道表彰」の実施方針と選考基準等について審議。
- ・道内全80水土里ネットの運動の活動内容について、都市と農村の交流や関係団体・地域住民等との連携、学校教育との連携、先駆的な農業農村振興活動、環境・景観保全活動など7項目に分類した活動について積極的に取り組んでいる23水土里ネット（過去に全国大賞を受賞した5水土里ネットを除く）を表彰候補として一次選考。

2) 第2回委員会

○期 日 平成21年7月9日

○選考内容

【北海道大賞の選考】第1回選考委員会の一次選考で選んだ水土里ネットのうち過去に北海大賞を受賞した15水土里ネットを除く8水土里ネットの活動について、選考基準をもとに整理・検討し、特に優れた活動を展開している4水土里ネットを北海道大賞に選定。

【全国大賞推薦の選考】過去に北海道大賞を受賞した15水土里ネットと、今年度北海道大賞に選定した4水土里ネットの、合わせて19水土里ネットの活動について、選考基準をもとに検討し、特に優れた活動を展開している1水土里ネットを全国大賞中央選考委員会（全国水土里ネット）へ推薦。

Ⅱ 21創造運動北海道大賞地区の概要

1. 水土里ネット新篠津（新篠津土地改良区）

(1) 水土里ネットの概要

- ①地区面積：1,736ha ②組合員数：174戸 ③関係市町村：新篠津村
- ④役職員等数：総代一名、役員10名、職員10名

(2) 21創造運動の概要と受賞ポイント

都市と農村の交流活動では、近隣水土里ネットと連携して「農業体験学習会」を継続的に開催。春の田植え体験、秋の稲刈り体験には多くの親子連れ等が参加し、水土里ネットの役員が指導にあたるなど、役職員一丸となって都市住民や子どもたちへの農業に対する理解の促進と交流を図っている。また、JR札幌駅前での「農産物直売フェスタ」にも参画し、地域農産物のPRに努めるなど地域振興にも貢献している。

関係団体・地域住民等との連携活動では、自治会等に参加を呼びかけて用水路沿いにハーブを植栽し、環境・景観保全に取り組むほか、農地・水・環境保全向上対策の活動組織と緊密な連携を図り、より効果の高い資源保全活動を推進している。

そのほか、小学校と連携した施設見学会や「しのつ湖」の生態系保全に取り組むなど、多様な連携のもとで開かれた運動が展開されており、農業・農村の多面的機能や水土里ネットの役割などについての理解促進が図られているほか、施設管理や地域資源の保全強化に繋がっている。

(3) 21創造運動の主な取組

都市と農村の交流

◇篠津地域農業体験学習会の開催

近隣水土里ネットと連携して、平成12年度から継続して毎年2回開催。田植えや稲刈り体験のほか、乗馬、植樹、施設見学など多彩なメニューで楽しませるなど、都市住民や子どもたちと積極的な交流を図っている。(平成20年度は延べ750名が参加)



関係団体・地域住民等との連携、環境・景観保全活動

◇用水路敷地へのハーブの植栽

組合員をはじめ地域住民等の協力を得て、基幹幹線用水路の敷地にハーブを植栽し、環境・景観保全を推進している。



学校教育との連携

◇小学校の社会科見学に協力

児童を揚水機場等に案内し、農業用水や施設、水土里ネットの役割等を紹介している。

環境・景観保全活動

◇「しのつ湖」の生態系保全の取り組み

魚類等の生態系保全に向け、ゲート操作による適正水位の確保や水質試験を実施している。

2. 水土里ネットたどし（多度志土地改良区）

(1) 水土里ネットの概要

- ①地区面積：1, 542ha ②組合員数：139戸 ③関係市町村：深川市
- ④役職員等数：総代一名、役員8名、職員7名

(2) 21創造運動の概要と受賞ポイント

都市と農村の交流活動では、深川市が主催するイベントに積極的に参画し、パネル等で農業・農村の多面的機能や水土里ネットの役割などを紹介するほか、「ニジマスつかみ」などで子どもたちの興味を引き、交流を図っている。

学校教育との連携では、農業施設見学や農機具試乗体験などを行い、農業について理解を促進するとともに、「用水路の水はどこから来たんだろう？」などの副読本を小学生に配布し、農業用水・施設の役割などを紹介している。

そのほか、貯水池を大学のボート実習に開放するなどの多面的活用や、地域住民と連携した用水路敷地の花壇整備、農業用水の防火用水機能増進などにも取り組んでおり、行政や学校など多様な組織等との連携による活動を通じて、農業用水や水利施設、水土里ネットの役割等の理解促進が図られている。また、施設管理や地域資源の保全強化、地域振興にも貢献している。

(3) 21創造運動の主な取組

都市と農村の交流

◇地域イベントへの参画

市などが主催する地域のイベントに積極的に参画し、パネル等で農業用水・水土里ネットの役割等を紹介する



ほか、「ニジマスつかみ」など子どもたちに興味を引く催しも企画し、交流を図っている。

学校教育との連携

◇小学校の社会科見学に協力

子どもたちに農業に対する興味を持つてもらおうと、農業施設見学や農機具試乗体験を実施。ほ場整備などによって大型機械による作業が可能となり近代的な農業が確立されたことなどを紹介した。



◇大学のボート実習に貯水池を開放

水土里ネットが管理する貯水池を、安全使用に関する協定を結んで大学に開放。学生のボート実習に活用されている。



関係団体・地域住民等との連携、環境・景観保全活動

◇用水路敷地に花壇の整備

地域住民等の協力を得て用水路の敷地に花壇を整備し、地域の景観形成活動を進めている。

多様な広報等

◇農業用水、水土里ネットの役割等のPRパンフ、副読本の作成

子どもたちにも分かりやすいパンフ等を作成し、子どもたちに配布している。

3. 水土里ネット蘭越（蘭越土地改良区）

(1) 水土里ネットの概要

- ①地区面積：2,797ha ②組合員数：443戸 ③関係市町村：蘭越町
- ④役職員等数：総代30名、役員13名、職員8名

(2) 21創造運動の概要と受賞ポイント

都市と農村の交流活動では、各種イベントに積極的に参画し、パネルやPRグッズで土地改良施設の役割や地域農産物の「食の安全」と地産地消などをPR。抽選会では「らんこし米」や米粉加工品などをプレゼントし、参加者の交流と地域振興を図っている。

教育支援では、町教育委員会等と連携し小学生の参加を呼びかけて「農業伝承塾」を開催。稲刈り体験や施設見学会を通じて、農業に欠かすことのできない農業用水、水土里ネットの役割などを紹介している。

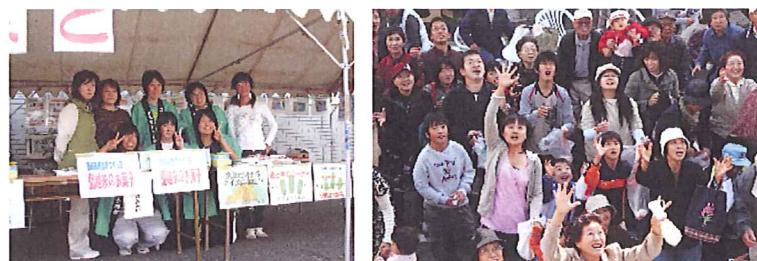
そのほか、農地・水・環境保全向上対策の活動組織への助言・指導と同対策の地域住民への理解促進や、農業用水の防火用水機能増進に向けた消防組合との協議、さらには農業用水や水土里ネットの役割などを紹介したパンフ等を作成・配布して広く情報発信するなど、活動の一層の広がり・発展に向けて関係団体等と多様かつ有機的な連携を図りながら、地域住民等への理解の促進と地域振興に貢献している。

(3) 21創造運動の主な取組

都市と農村の交流

◇地域イベントへの参画

町内の商店街等が主催する「キララ共和国建国祭」や「歩くスキー大会」などの地域のイベントに積極的に参画し、農業農村整備事業の重要性や水土里ネットの役割などをパネルやグッズ等で紹介。また、餅まきなどを行い、イベントを盛り上げている。



盛り上がった「餅まき」

子どもたちの教育支援

◇農業伝承塾の開催・協力

小学校高学年を対象に、教育委員会等と連携して「農業伝承塾」を開催。20年度は父兄を含めて約30名の参加を得て稲刈り体験や用水路の見学などを行い、農業・農村に対する理解を求めた。



関係団体・地域住民等との連携

◇地域資源保全活動の積極的な推進

農地・水・環境保全向上対策の円滑な推進に向けて、活動組織の取組に対する助言・指導を行っているほか、農業者や地域住民等に対して同対策の浸透、円滑な活動への支援を行っている。

◇農業用水の防火用水機能の増進

地区内の用排水路等の位置図を消防組合に提供し、対処できる箇所の増加に向けて協議を進めている。

4. 水土里ネットあつま（厚真町土地改良区）

(1) 水土里ネットの概要

①地区面積：3,558ha ②組合員数：714戸 ③関係市町村：厚真町、むかわ町 ④役職員等数：総代50名、役員17名、職員7名

(2) 21創造運動の概要と受賞ポイント

都市と農村の交流活動では、町内の農業まつりやJR札幌駅前での「農産物直売フェスタ」などに積極的に参画し、パネルやPRグッズで農業用水の多面的機能等を紹介するほか、地域農産物のPRに努めるなど地域振興にも貢献している。

地域住民等との連携では、農業用水等を活用しホタルの棲めるビオトープ整備計画について意見を交換するワークショップを開催しているほか、学校教育支援においては、小学校等と連携して児童による「田んぼの生き物調査」や社会科見学として施設見学会を実施し、農業用水・農業水利施設の多面的機能等について理解促進を図っている。

そのほか、組合員や地域住民等と連携して水路敷地の景観づくりを行うなど、自治会や関係団体等と有機的な連携の中で活動が広がり、生態系の保全など農業・農村の多面的機能などについて地域住民や子どもたちの理解が深まっている。

(3) 21創造運動の主な取組

都市と農村の交流

◇地域イベントへの参画

地域の田舎まつりや農業まつりに積極的に参画し、農業用水の多面的機能や地域資源の保全の重要性、水土里ネットの役割等をパネルやグッズ等紹介。また、抽選会などで地場産品のPRも行っている。



関係団体・地域住民等との連携

◇ワークショップの開催

農業用水、農業水利施設を活用して地域にホタルが生息できる環境整備を進めようと、室蘭開発建設部と連携し、JAや自治会、学校、老人クラブなど多様な参画を得てワークショップを開催している。



学校教育との連携

◇田んぼの生き物調査と施設見学会

小学校の協力を得て「田んぼの生き物調査」を実施。児童が農業用水路や排水路に生息する生き物を捕獲し、種類や数を調査することで、農業・農村の多面的機能への理解に繋がっている。また、農業水利施設の見学会も実施し、農業に欠かすことのできない施設の役割などを紹介している。



環境・景観保全活動

◇水路敷地への植栽活動

組合員や地域住民等の参加を呼びかけて用水路沿いの敷地に花壇を造成し、美しい景観形成に取り組んでいる。

